

株 主 各 位

東京都新宿区西新宿五丁目1番14号

テクノオウツ株式会社

取締役社長 根 生 辰 男

第37回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第37回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成25年6月19日（水曜日）午後5時30分までに到着するようにご返送くださいますようお願い申し上げます。

また、当日は株主懇談会の開催を株主総会終了後に予定しておりますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成25年6月20日（木曜日）午前11時
2. 場 所 東京都新宿区西新宿四丁目15番3号
住友不動産西新宿ビル3号館2階
ベルサール西新宿 Room 1
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)

3. 会議の目的事項

- 報 告 事 項**
1. 第37期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）事業報告および連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第37期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）計算書類報告の件

決 議 事 項

- 第 1 号 議 案** 剰余金の処分の件
第 2 号 議 案 取締役5名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類および連結計算書類に修正が生じた場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

(アドレス <http://www.techno-q.com>)

## 事業報告

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

### I. 企業集団の現況に関する事項

#### 1. 事業の経過及びその成果

当連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に、緩やかな回復傾向が続く一方で、欧米の財政問題や新興国経済の減速懸念から、依然として景気の先行きは不透明な状況が続きました。そのような中、昨年12月の政権交代に伴い、新政権による積極的な金融緩和や経済政策への期待から、行き過ぎた円高の是正や、株式市況の好転など、景気浮揚に向けた明るい兆しが見え始めました。

当社グループが属する半導体業界におきましては、スマートフォンやタブレット端末の需要拡大が続きましたが、世界経済の低迷などからデジタル家電やパソコンの販売不振が長期化しており、業界各社の経営環境や業績等は明暗を分ける結果となりました。

このような環境下、当社グループが取扱う半導体製造プロセスの消耗品であります石英やシリコン製品は、大手電機メーカーの半導体部門が縮小や整理統合の事業再編の渦中にあり、国内市場は受注・売上高ともに低迷した状況が続きました。

一方、海外市場では、主にアジア地域を中心に営業活動を展開いたしました結果、受注及び売上高については国内市場の低迷した状況を下支えするとともに、損益面でも貢献することができました。

なお、昭和53年に半導体製造装置用石英ガラス製品の分野へ進出した際に取得しました山形工場(山形市大字志戸田)は、その有効活用を検討してまいりましたが、当期におきまして売却の方針を決定いたしました。

その結果、山形工場は将来の使用が見込まれなくなりましたので、固定資産のグルーピング区分を変更し、独立してグルーピングを行うことといたしました。このグルーピング区分の変更に伴い、固定資産の帳簿価額については、時価との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

以上の結果、売上高は4,604百万円(前期比2.1%減)、営業利益は487百万円(同12.2%増)、経常利益は510百万円(同21.7%増)、当期純利益は275百万円(同33.6%減)となりました。

セグメント別の受注高等は次のとおりであります。

半導体事業の受注高は、前期比で4.1%増加して4,202百万円となり、対前期比では増加に転じたものの、国内市場の低迷から総じて低水準となりました。そのため、受注残高は昨年11月以降9億円を割った状態が継続しており、当期末では793百万円(前期比9.4%減)と8億円を割込んでの終了となりました。

なお、その他の事業の受注高は311百万円(同58.1%増)となり、受注残高は15百万円(同31.4%減)となりました。

半導体事業の売上高は、4,285百万円(同4.6%減)となりました。内訳としては石英製品が2,720百万円(同19.3%減)と大きく減少しましたが、シリコン製品が1,564百万円(同39.9%増)と増加したことから、売上高全体が低迷する中、売上高の構成割合に変化が見られました。

また、その他の事業の売上高は318百万円(同49.8%増)となりました。

損益面では売上高は伸び悩んだものの売上構成の変化や生産性の向上などが奏功し、半導体事業の売上総利益は1,627百万円(同20.8%増)となり、その他の事業は19百万円の損失(前年度は13百万円の損失)となりました。販売費及び一般管理費を控除した全体での営業利益は487百万円(前期比12.2%増)となりました。

上記のとおり業績が当初の予想を上回ったことから、期末配当を当初予想に対して増配することといたしました。

○セグメント別販売実績は次のとおりであります。

| 区 分       | 販 売 実 績 | 構 成 比 |
|-----------|---------|-------|
|           | 百万円     | %     |
| 半 導 体 関 連 | 4,285   | 93.1  |
| そ の 他     | 318     | 6.9   |
| 合 計       | 4,604   | 100.0 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、理化学機器等の製造・販売等を含んでおります。

## 2. 設備投資の状況

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は439百万円であります。その主なものは、旧型設備の買換え及び機械装置の新規購入が中心であります。

## 3. 資金調達の状況

当連結会計年度において、増資、社債発行及び巨額の借入等による重要な資金調達は行っておりません。

## 4. 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

特に記載すべき事項はございません。

## 5. 他の会社の事業の譲受けの状況

特に記載すべき事項はございません。

## 6. 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

特に記載すべき事項はございません。

## 7. 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

特に記載すべき事項はございません。

## 8. 対処すべき課題

半導体関連業界は、世界的規模でこれまで成長を牽引してきたパソコン、携帯、TVなど民生機器が減速を示す一方で、スマートフォン、タブレット端末など高性能アプリケーションの展開により市場全体が牽引され、今後も穏やかに成長を維持するものと期待されています。

ただし、国内半導体メーカーの競争力低下による半導体工場の閉鎖、売却が相次ぎ国内市場が縮小する中、海外大手半導体メーカーは微細化、大型化を含めた設備投資計画を相次いで発表しております。

このような急激な半導体市場の構造的な変化に対処する為の当社グループの成長戦略は以下のとおりであります。

- ・ 国際化促進と市場ボーダーレス化への対応の為、中国を含むアジアへの展開を強化するとともに昨年度設立した米国現地法人の本格稼働等、グローバルな営業展開を図り、更なる事業拡大を図ります。
- ・ 新設した製品開発部を中心として既存分野のシェアアップにとどまらず、技術革新により新規分野（太陽電池、LED、バイオ等）への参入を図り、安定的経営を目指します。
- ・ 超精密加工技術、拡散接合技術等の技術を高度化し、当社独自のコアコンピタンスを創出することで技術革新を図り、他社との差別化を図ります。
- ・ リードタイムの短縮、品質の向上、コストダウン等の徹底したゼロベースでの生産革新により、製造原価の低減に努めます。
- ・ 重要顧客とのパートナーシップ強化及び顧客サービスの質的向上を図る為、アンテナ感度を高くしたマーケティング力、分析能力等を育成し、顧客拡大に努めます。
- ・ 中国子会社及び国内工場の生産設備の見直しにより生産能力の向上を図ります。これにより全体の生産能力向上はもとより、東日本大震災の様な災害時における緊急の生産相互補完能力を強化します。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 9. 財産及び損益の状況の推移

### ①企業集団の財産及び損益の状況の推移

| 区 分         | 第34期     | 第35期     | 第36期     | 第37期(当期) |
|-------------|----------|----------|----------|----------|
|             | 平成22年3月期 | 平成23年3月期 | 平成24年3月期 | 平成25年3月期 |
| 売上高(百万円)    | 3,867    | 4,764    | 4,703    | 4,604    |
| 経常利益(百万円)   | 31       | 285      | 419      | 510      |
| 当期純利益(百万円)  | 5        | 254      | 414      | 275      |
| 1株当たり当期純利益  | 0.74     | 32.84    | 53.59    | 35.56    |
| 総資産(百万円)    | 7,329    | 7,563    | 7,693    | 7,754    |
| 純資産(百万円)    | 4,761    | 4,917    | 5,267    | 5,662    |
| 1株当たり純資産(円) | 615.08   | 635.26   | 680.49   | 731.58   |

(注) 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数(自己株式を控除した株式数)により、1株当たり純資産は、期末発行済株式総数(自己株式を控除した株式数)により算出しております。

### ②当社の財産及び損益の状況の推移

| 区 分         | 第34期     | 第35期     | 第36期     | 第37期(当期) |
|-------------|----------|----------|----------|----------|
|             | 平成22年3月期 | 平成23年3月期 | 平成24年3月期 | 平成25年3月期 |
| 売上高(百万円)    | 3,858    | 4,724    | 4,668    | 4,589    |
| 経常利益(百万円)   | 79       | 176      | 312      | 435      |
| 当期純利益(百万円)  | 53       | 155      | 320      | 243      |
| 1株当たり当期純利益  | 6.96     | 20.11    | 41.46    | 31.49    |
| 総資産(百万円)    | 7,666    | 7,900    | 7,990    | 7,780    |
| 純資産(百万円)    | 4,987    | 5,139    | 5,411    | 5,616    |
| 1株当たり純資産(円) | 644.29   | 663.93   | 699.18   | 725.59   |

(注) 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数(自己株式を控除した株式数)により、1株当たり純資産は、期末発行済株式総数(自己株式を控除した株式数)により算出しております。

## 10. 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社との関係

ジーエルサイエンス株式会社は当社の株式5,084,000株（議決権比率65.68%）を所有する親会社であり、同社は精密理化学機器及び科学研究用機器並びに理化学用薬品、試薬の製造及び販売を行っております。

また、同社との間に理化学機器関連について取引があります。

同社の第46期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結売上高は16,740百万円（前連結会計年度比1.4%増）、連結当期純利益は525百万円（同13.8%減）となっております。

### ② 重要な子会社の状況

| 会社名                        | 資本金               | 議決権比率    | 主要な事業内容                   |
|----------------------------|-------------------|----------|---------------------------|
| 杭州泰谷諾石英有限公司                | 千<br>US \$ 14,100 | %<br>100 | 半導体製造装置用石英製品・シリコン製品の加工製造  |
| GL TECHNO<br>America, Inc. | US \$ 100         | 100      | 半導体製造装置用部品その他の製造販売及び輸出入業務 |

### ③ 企業結合の成果

特に記載すべき事項はございません。

## 11. 主要な事業内容

当社グループは、石英ガラスの加工技術を基に、半導体製造装置用の石英治具及び理化学機器、シリコン加工、産業用加熱機器の製造、販売を主力事業としております。

(注) 当社グループの事業内容から判断し、主要製品ではなく事業内容を記載しております。

## 12. 主要な営業所及び工場

### ①テクノクオーツ株式会社

本 社 東京都新宿区西新宿五丁目1番14号

工 場 蔵王工場 (山形県山形市)

蔵王南工場 (山形県山形市)

主な営業所 東京営業所 (東京都新宿区) 東北営業所 (山形県山形市)

関西営業所 (京都府京田辺市) 九州営業所 (熊本県熊本市)

北陸営業所 (富山県富山市)

### ②杭州泰谷諾石英有限公司

本社及び工場 中国浙江省杭州市

### ③GL TECHNO America, Inc.

本 社 米国カリフォルニア州



### 13. 従業員の状況

①企業集団の従業員の状況（平成25年3月31日現在）

| 従業員数  | 前連結会計年度末比増減 |
|-------|-------------|
| 328 名 | 1 名増        |

(注) 上記従業員数には、臨時従業員（26名）は含んでおりません。

②当社の従業員の状況（平成25年3月31日現在）

| 従業員数  | 前事業年度末比増減 | 平均年齢   | 平均勤続年数 |
|-------|-----------|--------|--------|
| 162 名 | 2名減       | 36.5 歳 | 11.6 年 |

(注) 上記従業員数には、臨時従業員（26名）は含んでおりません。

### 14. 主要な借入先の状況（平成25年3月31日現在）

| 借入先           | 借入額     |
|---------------|---------|
| 株式会社山形銀行      | 306 百万円 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 236 百万円 |

## II. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 31,200,000 株
2. 発行済株式の総数 7,740,221 株（自己株式 59,779株を除く）
3. 株主数 1,654 名
4. 大株主

| 株 主 名           | 持 株 数     | 持株比率  |
|-----------------|-----------|-------|
|                 | 株         | %     |
| ジューエルサイエンス株式会社  | 5,084,000 | 65.68 |
| テクノクオーツ従業員持株会   | 161,000   | 2.08  |
| 株 式 会 社 山 形 銀 行 | 100,000   | 1.29  |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行   | 80,000    | 1.03  |
| 水 谷 智           | 76,000    | 0.98  |
| 株 式 会 社 山 口 銀 行 | 40,000    | 0.51  |
| 株 式 会 社 テ セ ッ ク | 35,000    | 0.45  |
| 岡 本 克 己         | 28,000    | 0.36  |
| 大 室 赳           | 26,000    | 0.33  |
| 田 中 昭 夫         | 20,000    | 0.25  |
| 森 禮 子           | 20,000    | 0.25  |
| 佐 々 木 嘉 樹       | 20,000    | 0.25  |

(注) 1. 持株比率は自己株式（59,779株）を控除して計算しております。  
 2. 持株比率のパーセントは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

5. その他株式に関する重要な事項  
 特に記載すべき事項はございません。

### Ⅲ. 会社役員に関する事項

#### 1. 取締役及び監査役の氏名等

| 地 位       | 氏 名       | 担当、主な職業及び重要な兼職の状況                            |
|-----------|-----------|----------------------------------------------|
| 取 締 役 会 長 | 外 丸 勝 彦   | ジーエルサイエンス（株）取締役社長<br>杭州泰谷諾石英有限公司董事           |
| 取 締 役 社 長 | 根 生 辰 男   | 杭州泰谷諾石英有限公司董事長                               |
| 取 締 役     | 小 野 文 男   | 管理本部長<br>兼経営企画室長<br>兼品質保証部長<br>杭州泰谷諾石英有限公司董事 |
| 取 締 役     | 高 橋 寛     | 営業本部長<br>兼生産本部副本部長<br>杭州泰谷諾石英有限公司董事          |
| 取 締 役     | 小 針 誠     | 生産本部長<br>兼杭州泰谷諾石英有限公司担当<br>杭州泰谷諾石英有限公司董事     |
| 常 勤 監 査 役 | 東 條 弘 明   | 杭州泰谷諾石英有限公司監事                                |
| 監 査 役     | 佐 藤 文 一 郎 |                                              |
| 監 査 役     | 櫛 引 昭 三   |                                              |

- (注) 1. 平成24年6月15日開催の第36回定時株主総会において、根生辰男及び小針誠の両氏は取締役新たに選任され、就任いたしました。
2. 平成24年6月15日開催の第36回定時株主総会終結の時をもって、岡本克己及び水谷省吾の両氏は取締役を退任いたしました。
3. 常勤監査役東條弘明及び監査役佐藤文一郎、監査役櫛引昭三の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。なお、東條弘明及び佐藤文一郎の両氏は、大阪証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。
4. 常勤監査役東條弘明氏は、株式会社三菱銀行（現株式会社三菱東京UFJ銀行）において、融資部門の業務を長年にわたり経験し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

## 2. 取締役及び監査役の報酬等の額

|                  | 支給人員       | 支払額                    |
|------------------|------------|------------------------|
| 取締役              | 6名         | 61,151千円               |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 3名<br>(3名) | 11,202千円<br>(11,202千円) |
| 合計               | 9名         | 72,353千円               |

- (注) 1. 上記支払額には、当事業年度に計上した役員退職慰労引当金繰入額6,904千円（取締役6,451千円、監査役452千円）が含まれております。
2. 上記支給人員のほか、無報酬の取締役が1名おります。
3. 上記支払額のほか、平成24年6月15日開催の第36回定時株主総会の決議に基づき、役員退職慰労金を退任取締役2名に対し16,539千円支給しております。なお、この金額には過年度の事業報告において記載した役員退職慰労引当金繰入額15,950千円が含まれております。
4. 取締役及び監査役の報酬限度額は、取締役が平成11年6月11日開催の第23回定時株主総会において年額110,000千円以内、監査役が平成20年6月20日開催の第32回定時株主総会において年額15,000千円以内と決議いただいております。

### 3. 社外役員に関する事項

#### ①重要な兼職先と当社との関係

特に記載すべき事項はございません。

#### ②当事業年度における主な活動状況

##### 1) 取締役会及び監査役会への出席状況

|           | 取締役会 (25回開催) |      | 監査役会 (13回開催) |      |
|-----------|--------------|------|--------------|------|
|           | 出席回数         | 出席率  | 出席回数         | 出席率  |
| 監査役 東條弘明  | 25回          | 100% | 13回          | 100% |
| 監査役 佐藤文一郎 | 25回          | 100% | 13回          | 100% |
| 監査役 櫛引昭三  | 25回          | 100% | 13回          | 100% |

##### 2) 取締役会及び監査役会における発言内容

監査役東條弘明及び佐藤文一郎、櫛引昭三の3氏は、豊富な経験を活かし、企業経営に対する客観的・中立的な見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

監査役会においては、各監査役による監査の実施状況及び結果についての報告・協議を行うほか、取締役・執行役員から職務の執行について説明や報告を受けております。

#### ③責任限定契約の内容の概要

特に記載すべき事項はございません。

#### IV. 会計監査人の状況

##### 1. 会計監査人の名称

名称 監査法人A&Aパートナーズ

##### 2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

|                                          | 支払額       |
|------------------------------------------|-----------|
| ①当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                     | 18,000 千円 |
| ②当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭<br>その他の財産上の利益の合計額 | 18,000 千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、「会社法」に基づく監査と「金融商品取引法」に基づく監査の報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分できませんので、①の支払額にはそれらの合計額を記載しております。

##### 3. 非監査業務の内容

特に記載すべき事項はございません。

##### 4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得たうえで、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会では、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の合意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

なお、監査役会は、会計監査人の継続監査年数等を勘案しまして、再任もしくは不再任の決定を行います。

##### 5. 責任限定契約の内容の概要

特に記載すべき事項はございません。

## V. 会社の体制及び方針

### 1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

#### ①取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1) 当社は、「創立の根本精神及び経営理念」において「経営者は私欲に負けない」と謳っているように、取締役及び使用人に対し、法令遵守は当然のこととして、社会の構成員に求められる高い倫理観、価値観に基づき誠実に行動することを求めている。
- 2) 取締役会は、企業統治を一層強化する観点から、実効性ある内部統制システムの構築と会社による全体としての法令・定款遵守の体制の確立に努める。
- 3) 内部監査担当による監査と監査役による監査を充実させ、内部統制システムの有効性を確保し、課題の早期発見と是正に努める。

#### ②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行にかかる情報については、法令及び社内規程に基づき、文書または電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、保存する。必要に応じて取締役、監査役、会計監査人等が、文書管理規程により、常時、これらの文書等を閲覧、謄写できるものとする。

#### ③損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の企業としてのリスクに対応するため、リスク毎に管理・対応部門を決定し適切な処置を行う。また、必要に応じてリスク管理の観点から規程類の整備を行う。

コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティ及び輸出管理等にかかるリスクについては、それぞれの担当部署にて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配布を行うものとし、組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は総務部が行うものとする。新たに生じたリスクについては取締役会においてすみやかに対応責任者となる取締役を定める。

#### ④取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1) 当社は、定例取締役会を月1回開催するほか必要に応じて臨時に開催する。
- 2) 取締役は、取締役会規則等の職務権限・意思決定に関する規程に基づき、適正かつ効率的に担当する職務の執行を行う。
- 3) 取締役会は取締役、社員が共有する全社的な目標を定め、この目標達成に向けて、迅速な意思決定ができるよう、IT技術を活用した情報システムを構築し、効率的な業務執行体制を確保する。

- ⑤使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- 1) 当社は、「創立の根本精神及び経営理念」のなかで、取締役及び使用人に対し、法令遵守は当然のこととして、社会の構成員に求められる高い倫理観、価値観に基づき誠実に行動することを求めている。
  - 2) 取締役会は、企業統治を一層強化する観点から、実効性ある内部統制システムの構築と会社による全体としての法令・定款遵守の体制の確立に努める。
  - 3) 企業理念、企業行動規範、企業倫理規程等、コンプライアンス体制にかかる規程を役職員が遵守し、自ら定めた高い倫理観を持続しながら企業活動を行うためのコンプライアンス教育・啓発を行う。
  - 4) 内部監査担当による監査と監査役による監査を充実させ、内部統制システムの有効性を確保し、課題の早期発見と是正に努める。
  - 5) 法令違反行為等に関する相談または通報の適正な処理の仕組みを定め、不正行為等の早期発見と是正、通報者の保護を図る。法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段としてホットラインを設置・運営する。
- ⑥当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 1) 当社グループの企業は経営理念を共有しており、取締役及び使用人に対し、当社同様高い倫理観、価値観に基づき誠実に行動するよう求めている。
  - 2) 子会社の経営については、子会社の独立性を尊重しつつ関係会社管理規程に基づき適切な管理を行う。子会社の事業に関して責任を負う取締役を任命し、法令遵守体制、リスク管理体制を構築する権限と責任を与え、本社はこれらを推進し運営管理する。
  - 3) 内部監査部門は、当社グループの企業活動が適法・適正かつ効率的に行われるよう、グループ企業全社について業務の遂行状況及び内部統制の状況について監査する。
  - 4) 監査役は、連結経営に対応したグループ全体の監視、監査を実効的かつ適正に行えるよう会計監査人及び内部監査担当と密接に連携する。
- ⑦監査役がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 内部監査部門に所属する使用人は、監査役が求めたときは、その指揮命令のもとに監査役の職務の補助を行う。
- ⑧前号の使用人の取締役からの独立性の確保に関する事項
- 1) 監査役の補助業務を担当中の内部監査担当員は、監査役の指揮、監督のもと、他の取締役の指揮、監督は受けないものとする。
  - 2) 内部監査担当の人事、組織の変更等については予め監査役会の同意を必要とする。



⑨取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- 1) 取締役及び使用人は、取締役会等の重要な会議において随時その担当する職務の執行状況について報告を行う。
- 2) 取締役及び使用人は、当社グループの事業、組織に重大な影響を及ぼす決定、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ホットラインによる通報状況及びその内容については遅滞なく監査役会に報告する。
- 3) 取締役及び使用人は、職務執行に関して重大な法令・定款違反もしくは不正行為の事実または会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、遅滞なく監査役会に報告する。
- 4) 取締役及び使用人は、監査役が事業に関する報告を求めた場合または監査役が業務及び財産の状況を調査する場合、迅速かつ的確に対応し、監査役に協力する。
- 5) 報告の方法（報告者、報告受領者、報告時期等）については、取締役会と監査役会との協議により決定する方法による。

⑩その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- 1) 監査役の過半数は独立社外監査役とし、対外透明性を担保する。
- 2) 代表取締役は、監査役と定期的な会合を持ち、会社運営に関する意見交換及び意思の疎通を図る。また、経営計画会議など業務の適正を確保する上で重要な会議への監査役の出席を確保する。
- 3) 監査役は、独自に意見形成するため、監査の実施にあたり必要と認めるときは、自らの判断で、弁護士、公認会計士、コンサルタントその他アドバイザー等の外部専門家との連携を行うことができる。

## 2. 株式会社の支配に関する基本方針

特に記載すべき事項はございません。

~~~~~  
以上の報告は、次により記載しております。

1. 記載金額は、表示単位未満を切り捨て、1株当たりの数値及びその他の数値については四捨五入により表示しております。
2. 平均年齢、平均勤続年数及び各比率は、小数点第2位以下を切り捨てて小数点第1位までを表示しております。
3. 売上高等の記載金額には、消費税等は含まれておりません。

連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
流 動 資 産	4,257,311	流 動 負 債	1,424,884
現金及び預金	1,490,137	支払手形及び買掛金	236,117
受取手形及び売掛金	1,513,252	短期借入金	761,712
有価証券	200,000	リース債務	16,510
製品	135,665	未払法人税等	60,594
仕掛品	286,114	賞与引当金	74,310
原材料及び貯蔵品	473,953	その他	275,640
繰延税金資産	53,274	固 定 負 債	666,920
その他	106,493	長期借入金	509,220
貸倒引当金	△1,580	リース債務	56,315
固 定 資 産	3,497,157	繰延税金負債	7,117
有形固定資産	3,229,826	退職給付引当金	81,156
建物及び構築物	1,100,309	役員退職慰労引当金	12,187
機械装置及び運搬具	849,952	資産除去債務	922
土地	985,336	負 債 合 計	2,091,804
リース資産	68,311	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	179,221	株 主 資 本	5,639,645
その他	46,695	資本金	829,350
無形固定資産	50,515	資本剰余金	1,015,260
投資その他の資産	216,814	利益剰余金	3,827,643
投資有価証券	113,551	自己株式	△32,608
長期貸付金	5,670	その他の包括利益累計額	23,017
その他	99,535	その他有価証券評価差額金	8,010
貸倒引当金	△1,942	為替換算調整勘定	15,006
		純 資 産 合 計	5,662,663
資 産 合 計	7,754,468	負債及び純資産合計	7,754,468

連結損益計算書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

科 目	金 額	
	千円	千円
売 上 高		4,604,182
売 上 原 価		2,996,452
売 上 総 利 益		1,607,730
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,120,344
営 業 利 益		487,385
営 業 外 収 益		45,573
受 取 利 息	750	
受 取 配 当 金	1,708	
受 取 保 険 金	5,496	
為 替 差 益	21,115	
そ の 他	16,502	
営 業 外 費 用		22,385
支 払 利 息	21,670	
そ の 他	714	
経 常 利 益		510,573
特 別 利 益		176,018
特 別 損 失		
特 別 損 失		
特 別 利 益	3,782	
特 別 損 失	38,072	
特 別 損 失	137,946	
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		338,337
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	71,210	
法 人 税 等 調 整 額	△8,145	63,064
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益		275,273
当 期 純 利 益		275,273

連結株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
	千円	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	829,350	1,015,260	3,606,551	△32,608	5,418,554
当 期 変 動 額					
剰余金の配当	—	—	△54,181	—	△54,181
当 期 純 利 益	—	—	275,273	—	275,273
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	—	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	221,091	—	221,091
当 期 末 残 高	829,350	1,015,260	3,827,643	△32,608	5,639,645

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	△6,845	△144,510	△151,355	5,267,198
当 期 変 動 額				
剰余金の配当	—	—	—	△54,181
当 期 純 利 益	—	—	—	275,273
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	14,855	159,517	174,373	174,373
当 期 変 動 額 合 計	14,855	159,517	174,373	395,464
当 期 末 残 高	8,010	15,006	23,017	5,662,663

連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称 杭州泰谷諾石英有限公司

GL TECHNO America, Inc.

GL TECHNO America, Inc. は新たに設立したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

2. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社決算日

杭州泰谷諾石英有限公司 12月31日

GL TECHNO America, Inc. 3月31日

連結子会社である杭州泰谷諾石英有限公司は、連結計算書類の作成に当たっては同決算日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1)資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの…決算末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…移動平均法による原価法

②たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

イ 製品・仕掛品……個別法（ただし、仕掛原材料は移動平均法）

ロ 原材料・貯蔵品……移動平均法

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社は定率法を、また、在外連結子会社は当該国の会計基準の規定に基づく定額法を採用しております。

ただし、当社は平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）については、定額法によっております。

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金……………債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率によっており、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金……………従業員の賞与の支給に備えるため、将来支給見込額のうち当連結会計年度の費用負担額を計上しております。

③退職給付引当金……………当社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

④役員退職慰労引当金……………当社は、役員（執行役員を含む）の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職金規程に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(5) 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(連結貸借対照表関係)

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 4,754,650千円

なお、減価償却累計額には減損損失累計額54,412千円を含んでおります。

(2) 担保に供している資産

建物及び構築物	915,346千円
土地	948,862千円
計	1,864,209千円

担保資産に対応する債務

短期借入金	189,040千円
長期借入金	117,480千円
計	306,520千円

(3) 過年度に取得した土地のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は300,000千円であり、連結貸借対照表計上額はこの圧縮記帳額を控除しております。

(連結損益計算書関係)

減損損失

当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。

名称	種類	場所	金額(千円)
山形工場	建物及び構築物	山形市大字志戸田	54,412
同上	土地	同上	83,533

当社はすべての資産が一体となってキャッシュ・フローを生成していることから、全体を1つの資産グループとしておりましたが、上記物件の売却方針の決定に伴い、当該工場は将来の使用が見込まれなくなりましたので、固定資産のグルーピング区分を変更し、独立してグルーピングを行うことといたしました。その結果、固定資産の帳簿価額を、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産の簡易鑑定に基づいております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
普通株式 7,800,000株
2. 配当に関する事項
(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月15日 定時株主総会	普通株式	54,181	利益剰余金	7	平成24年 3月31日	平成24年 6月18日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 6月20日 定時株主総会	普通株式	54,181	利益剰余金	7	平成25年 3月31日	平成25年 6月21日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については主に短期的な預金等としており、また、資金調達については金融機関からの借入を基本としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金には、顧客の信用リスクがあります。当該リスクに関しては、取引先与信限度設定管理規程に従い、与信限度額を定め、期日、残高を定期的に管理しております。また、顧客との取引の状況に応じては、適宜、限度額の見直しを行う体制を採っております。

投資有価証券は主に株式であり、市場価格の変動リスクがありますが、業務上の関係を有する会社の株式であり、時価を定期的に把握し有価証券管理規程に則り適正に管理・評価しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は1年以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。長期借入金は営業取引及び設備投資に係る資金調達であります。変動金利での借入金は金利変動リスクを伴うため、長期借入金については固定金利での調達を基本としております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

該当事項はありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,490,137	1,490,137	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,513,252	1,513,252	—
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	313,551	313,551	—
(4) 支払手形及び買掛金※	(236,117)	(236,117)	—
(5) 短期借入金※	(761,712)	(761,712)	—
(6) 長期借入金※	(509,220)	(509,731)	511

(※) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券（その他有価証券）

これらの時価について、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、投資有価証券の時価については取引所の価格によっております。

負 債

(4) 支払手形及び買掛金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 短期借入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、長期貸付金（資産）、未払法人税等（負債）、リース債務（負債）につきましては、重要性が乏しいと思われることから注記を省略しております。

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

区 分	1年以内(千円)
現金及び預金	1,488,843
受取手形及び売掛金	1,513,252
有価証券及び投資有価証券	
その他有価証券のうち満期があるもの	200,000
合 計	3,202,095

(注3) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	225,792	176,548	89,920	16,960

(1株当たり情報)

- (1) 1株当たり純資産額 731円58銭
- (2) 1株当たり当期純利益 35円56銭

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
流 動 資 産	3,598,736	流 動 負 債	1,503,699
現金及び預金	1,149,306	支払手形	138,694
受取手形	29,568	買掛金	183,803
売掛金	1,506,411	短期借入金	483,760
有価証券	200,000	1年内返済予定の長期借入金	277,952
製品	143,801	リース債務	16,510
仕掛品	182,726	未払金	19,894
原材料及び貯蔵品	240,663	未払費用	236,209
前渡金	11,887	未払法人税等	60,594
前払費用	11,581	預り金	11,005
未収入金	71,285	賞与引当金	74,310
繰延税金資産	52,257	その他	964
その他	854	固 定 負 債	660,265
貸倒引当金	△1,610	長期借入金	509,220
固 定 資 産	4,181,486	リース債務	56,315
有形固定資産	2,397,185	繰延税金負債	462
建物	907,088	退職給付引当金	81,156
構築物	9,847	役員退職慰労引当金	12,187
機械装置	282,465	資産除去債務	922
車両運搬具	63		
工具器具備品	15,571		
土地	985,336	負 債 合 計	2,163,964
リース資産	68,311	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	128,499	株 主 資 本	5,608,248
無形固定資産	12,191	資 本 金	829,350
ソフトウェア	10,927	資 本 剰 余 金	1,015,260
リース資産	1,045	資 本 準 備 金	1,015,260
その他	218	利 益 剰 余 金	3,796,245
投資その他の資産	1,772,109	利 益 準 備 金	161,637
投資有価証券	113,551	その他利益剰余金	3,634,607
関係会社株式	7,927	圧縮記帳積立金	761
関係会社出資金	1,517,762	別 途 積 立 金	3,250,000
従業員に対する長期貸付金	5,670	繰越利益剰余金	383,846
関係会社長期貸付金	37,620	自 己 株 式	△32,608
破産更生債権等	1,939	評 価 ・ 換 算 差 額 等	8,010
長期前払費用	398	その他有価証券評価差額金	8,010
保険積立金	75,283		
その他	13,937	純 資 産 合 計	5,616,258
貸倒引当金	△1,980	負 債 及 び 純 資 産 合 計	7,780,223
資 産 合 計	7,780,223		

損 益 計 算 書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

科 目	金 額	
	千円	千円
売 上 高		4,589,879
売 上 原 価		3,242,770
売 上 総 利 益		1,347,109
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		976,384
営 業 利 益		370,725
営 業 外 収 益		86,838
受 取 利 息	1,139	
受 取 配 当 金	24,348	
為 替 差 益	33,759	
技 術 指 導 料	10,100	
そ の 他	17,490	
営 業 外 費 用		22,420
支 払 利 息	21,706	
そ の 他	714	
経 常 利 益		435,142
特 別 損 失		146,302
固 定 資 産 除 却 損	8,356	
減 損 損 失	137,946	
税 引 前 当 期 純 利 益		288,840
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	62,182	45,072
法 人 税 等 調 整 額	△17,110	
当 期 純 利 益		243,767

株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計
	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	829,350	1,015,260	1,015,260
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	—	—	—
当 期 純 利 益	—	—	—
圧縮記帳積立金の取崩	—	—	—
別途積立金の積立	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—
当 期 末 残 高	829,350	1,015,260	1,015,260

	株 主 資 本			
	利益準備金	利 益 剰 余 金		
		そ の 他 利 益 剰 余 金		
	千円	千円	千円	千円
		圧縮記帳積立金	別 途 積 立 金	繰越利益剰余金
当 期 首 残 高	161,637	1,002	2,950,000	494,019
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当	—	—	—	△54,181
当 期 純 利 益	—	—	—	243,767
圧縮記帳積立金の取崩	—	△240	—	240
別途積立金の積立	—	—	300,000	△300,000
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	△240	300,000	△110,173
当 期 末 残 高	161,637	761	3,250,000	383,846

	株 主 資 本		
	利益剰余金合計	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	千円 3,606,659	千円 △32,608	千円 5,418,661
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	△54,181	—	△54,181
当 期 純 利 益	243,767	—	243,767
圧縮記帳積立金の取崩	—	—	—
別 途 積 立 金 の 積 立	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	189,586	—	189,586
当 期 末 残 高	3,796,245	△32,608	5,608,248

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当 期 首 残 高	千円 △6,845	千円 △6,845	千円 5,411,816
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	—	—	△54,181
当 期 純 利 益	—	—	243,767
圧縮記帳積立金の取崩	—	—	—
別 途 積 立 金 の 積 立	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	14,855	14,855	14,855
当 期 変 動 額 合 計	14,855	14,855	204,442
当 期 末 残 高	8,010	8,010	5,616,258

個 別 注 記 表

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの…決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの…移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

① 製品・仕掛品…個別法(ただし、仕掛原材料は移動平均法)

② 原材料・貯蔵品…移動平均法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率によっており、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、将来支給見込額のうち当事業年度の費用負担額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- (4) 役員退職慰労引当金 役員(執行役員を含む)の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権債務

短期金銭債権 37,923千円

短期金銭債務 117,241千円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 3,658,067千円

なお、減価償却累計額には減損損失累計額54,412千円を含んでおります。

3. 過年度に取得した土地のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は300,000千円であり、貸借対照表計上額はこの圧縮記帳額を控除しております。

4. 担保に供している資産

建物 905,499千円

構築物 9,847千円

土地 948,862千円

計 1,864,209千円

担保資産に対応する債務

短期借入金 110,000千円

1年内返済予定の長期借入金 79,040千円

長期借入金 117,480千円

計 306,520千円

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高

売	上	高	73,080千円				
仕	入	高	1,263,403千円				
材	料	有	償	支	給	高	303,360千円
営業取引以外の取引高	受	取	利	息	632千円		
	技	術	指	導	料	7,350千円	
	支	払	利	息	5,334千円		

2. 減損損失

当事業年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。

名称	種類	場所	金額(千円)
山形工場	建物	山形市大字志戸田	54,194
同上	構築物	同上	218
同上	土地	同上	83,533

当社はすべての資産が一体となってキャッシュ・フローを生成していることから、全体を1つの資産グループとしておりましたが、上記物件の売却方針の決定に伴い、当該工場は将来の使用が見込まれなくなりましたので、固定資産のグルーピング区分を変更し、独立してグルーピングを行うことといたしました。その結果、固定資産の帳簿価額を、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産の簡易鑑定に基づいております。

(株主資本等変動計算書関係)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式	59,779株
------	---------

(税効果会計関係)

繰延税金資産の主な発生原因は、賞与引当金及びたな卸資産の評価損等であり
ます。

また、繰延税金負債は、圧縮記帳積立金に係るものであります。

(関連当事者との取引)

親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	ジーエルサイエンス株式会社	被所有 直接65.7%	資金援助	借入金返済	514,000	1年内返済予定の関係会社 長期借入金 関係会社 長期借入金	— —
				利息支払(注)	5,334	未払費用	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)利息は市場金利を勘案して決定されております。

子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	杭州泰谷諾石英有限公司	所有 直接100%	資金援助	貸付金の回収	50,000	関係会社 短期貸付金	—
				利息受取(注1)	323	流動資産その他	—
				材料支給(注2)	303,360	未収入金	29,177
				製品及び原材料購入(注3)	1,263,269	買掛金	117,241
子会社	GL TECHNO America, Inc.	所有 直接100%	資金援助	運転資金貸付(注1)	37,620	関係会社 長期貸付金	37,620
				利息受取(注1)	309	流動資産その他	309

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)利息は市場金利を勘案して決定しており、返済条件は期日一括返済であります。

なお、担保は受入れておりません。

(注2)当社が購入した原材料を購入価格で支給しております。

(注3)市場実勢価格を勘案し、発注価格を決定しております。

(1株当たり情報)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 725円59銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 31円49銭 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

平成25年5月15日

テクノオーツ株式会社
取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指定社員 公認会計士 木間 久幸 ㊞
業務執行社員

指定社員 公認会計士 岡 賢治 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、テクノオーツ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、テクノオーツ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

平成25年5月15日

テクノオーツ株式会社
取締役会 御中

監査法人A&Aパートナーズ

指 定 社 員 公認会計士 木 間 久 幸 ㊞
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 岡 賢 治 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、テクノオーツ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第37期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書 謄本

監査報告書

当監査役会は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第37期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員的一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役・執行役員等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準、当期の監査方針、監査計画等に従い、取締役及び執行役員、内部監査部門その他の使用人、親会社の監査役等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席するほか、取締役及び執行役員その他の使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類その他重要な書類等を閲覧し、本社及び主要な営業所・工場において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び執行役員その他の使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社から定期的に事業の報告を求めるとともに情報の交換を図り、その業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、経営環境の変化に対応した取り組みが継続的に行われているものと認めます。
財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人監査法人A&Aパートナーズの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人監査法人A&Aパートナーズの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年5月22日

テクノクーツ株式会社 監査役会

常勤監査役 東 條 弘 明 ㊞
(社外監査役)

社外監査役 佐 藤 文一郎 ㊞

社外監査役 櫛 引 昭 三 ㊞

以 上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主の皆様に対する安定的利益還元を重要課題として認識しております。さらに、自己資本の充実と長期にわたる収益力向上のため、経営基盤の充実を図るとともに、中長期的な視野に立って配当水準の向上に積極的に取り組む方針であります。

このような方針のもと、剰余金の処分につきましては、当期の堅調な業績に応じた利益還元を勘案し、以下のとおりといたしたいと存じます。

1. 期末配当に関する事項

- ① 配当財産の種類
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき 7 円
配当総額 54,181,547 円
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日 平成25年6月21日

2. 剰余金の処分に関する事項

- ① 減少する剰余金の項目とその額
繰越利益剰余金 200,000,000 円
- ② 増加する剰余金の項目とその額
別途積立金 200,000,000 円

第2号議案 取締役5名選任の件

取締役全員（5名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役5名の選任をお願いしたいと存じます。
取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する 当社株式数
1	そとまる かつひこ 外丸勝彦 (昭和19年8月25日生)	昭和43年3月 ジーエルサイエンス(株)入社 平成22年3月 同社取締役社長（現任） 平成22年6月 当社取締役会長（現任） (重要な兼職の状況) ジーエルサイエンス(株)取締役社長 杭州泰谷諾石英有限公司董事	5,000 株
2	ねおい たつお 根生辰男 (昭和27年3月11日生)	昭和49年9月 ジーエルサイエンス(株)入社 平成14年4月 同社販売推進部部长 平成17年4月 同社執行役員販売推進部部长 平成19年6月 同社取締役生産本部部长 平成19年11月 同社取締役生産本部部长兼福島工場長 平成22年4月 同社取締役営業本部部长 平成24年3月 同社取締役 平成24年3月 当社入社 顧問 平成24年6月 当社取締役社長（現任） (重要な兼職の状況) 杭州泰谷諾石英有限公司董事長	5,000 株
3	おの ふみお 小野文男 (昭和25年10月30日生)	平成12年12月 当社入社 平成19年6月 当社執行役員営業本部部长 平成20年6月 当社取締役営業本部部长 平成20年10月 当社取締役営業本部部长兼東京営業所長 平成21年4月 当社取締役営業本部部长兼東京営業所長兼関西営業所長 平成22年5月 当社取締役総務部部长 平成22年6月 当社取締役管理本部部长兼総務部部长 平成24年4月 当社取締役管理本部部长兼経営企画室長兼品質保証部部长（現任） (重要な兼職の状況) 杭州泰谷諾石英有限公司董事	5,000 株

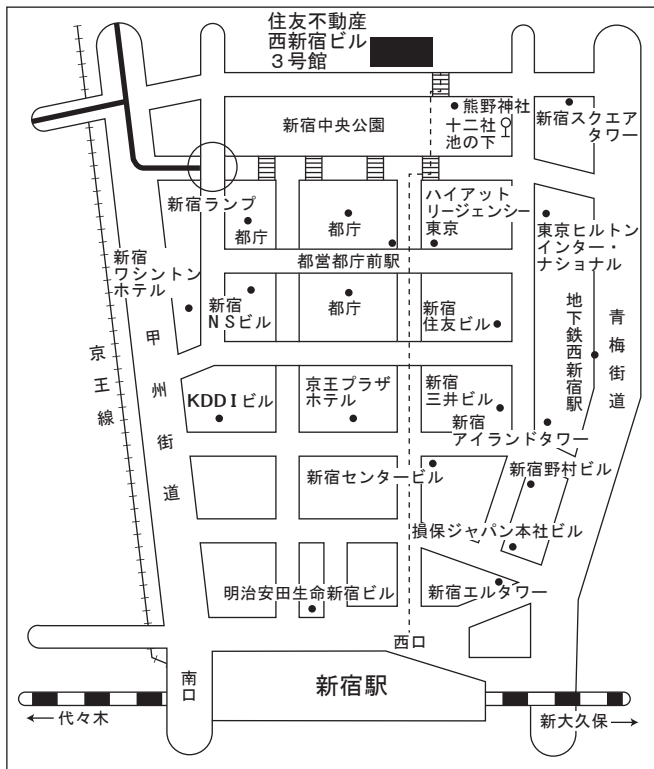
候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略 歴、地 位、担 当 (重要な兼職の状況)	所有する 当社株式数
4	たかはし ひろし 高 橋 寛 (昭和32年2月15日生)	平成16年1月 当社入社 平成17年5月 杭州泰谷諾石英有限公司生産部部长 平成20年1月 杭州泰谷諾石英有限公司総経理 平成20年7月 当社生産本部製造管理部長 平成22年5月 当社執行役員営業本部長 平成23年6月 当社取締役営業本部長 平成24年2月 当社取締役営業本部長兼生産本部副 本部長 (現任) (重要な兼職の状況) 杭州泰谷諾石英有限公司董事	4,000 株
5	こぼり まこと 小 針 誠 (昭和26年11月9日生)	平成8年9月 当社入社 平成14年4月 当社生産本部部长 平成17年5月 杭州泰谷諾石英有限公司総経理 平成20年1月 当社執行役員生産本部生産管理部長 平成20年6月 執行役員杭州泰谷諾石英有限公司総 経理 平成23年11月 当社執行役員生産本部資材部長 平成24年2月 当社執行役員生産本部長兼杭州泰谷 諾石英有限公司担当 平成24年6月 当社取締役生産本部長兼杭州泰谷諾 石英有限公司担当 (現任) (重要な兼職の状況) 杭州泰谷諾石英有限公司董事	8,000 株

- (注) 1. 取締役候補者外丸勝彦氏は、当社親会社ジーエルサイエンス株式会社の取締役社長を兼務し、当社は同社との間に理化学機器関連について取引関係があります。
2. その他の各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。

以 上

株主総会会場ご案内図

場 所：東京都新宿区西新宿四丁目15番3号
住友不動産西新宿ビル3号館2階
ベルサール西新宿 Room 1
電話 03 (3320) 2611



● 交通のご案内 ●

- | | |
|-------------------------|--------|
| 新宿駅 (JR・小田急・京王) | 徒歩約17分 |
| 西新宿駅 (東京メトロ丸ノ内線) | 徒歩約15分 |
| 都庁前駅 (都営大江戸線) | 徒歩約8分 |
| じゅうにそう
十二社池の下 (京王バス) | 徒歩約5分 |